

第7回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<中学の部 大賞>

「私の夢」

平川立夏子

また笑われた。これで何回目になるだろう。笑ったやつらをひとまとめにして思いっきりけとばしてやりたい。

そもそも、今の日本が悪いんだ。就職難だからって安定した職ばかりを求めるあまり、自分が本当にやりたいこと、本当の夢が見えていない人が多くなっている。そんな人たちを生み出したのは、他のどこでもない今の日本だ。

おかげで友達や大人の人に将来の夢を聞かれて「世界的に有名な医者になってたくさんの人を救う。」と答えると、「フンッ。」と鼻で笑われるようになってしまったじゃないか。しかし、笑ったやつらの夢を聞いてみると、「まだ決まってない。」とか、「とにかくなんでもいいから職につきたい。」という意見が多い。聞いて呆れる。私の夢を笑うくらいだからどんな立派な未来像を描いているのかと思ったら、なんの夢や希望もないなんて。そんなの夢と言えるのだろうか？

たしかに、私は成績はよくないし、みんなから慕ってもらえるような性格でもない。あきっぽいし怒りっぽい。だけど、時代や周囲の人達に流されるような、そんな意志の弱い人間ではないと思っている。

「ゆとりだから。」とか、「今の時代は就職難だから。」というのはただの言い訳にすぎない。誰に笑われようがバカにされようが、意地になってでも自分の意志を貫き通すのが夢を叶えるための一番大切なことだと思う。

私は私の夢を叶える。どんな困難が待ち受けていようとも、絶対に耐えて戦う。

かかってこい、未来。